

I 武蔵野市立大野田小学校「むらさき学級」の概要

1 在籍児童（令和7年4月現在 3学級）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	3	2	2	1	3	6	17
女子	0	0	2	0	0	0	2
合計	3	2	4	1	3	6	19

2 学級沿革

- 昭和29年 5月 むらさき学級設置準備委員会発足
6月 入級式
35年10月 むらさき学級開設5周年記念行事を行う
40年11月 むらさき学級開設10周年記念行事を行う
48年 9月 むらさき学級新設教室落成
50年12月 むらさき学級開設20周年記念行事を行う
61年11月 むらさき学級開設30周年を祝う集会を行う
平成10年 1月 心身障害学級授業公開を行う
14年 9月 校舎改築にともない仮設校舎へ引越し
17年 4月 新校舎へ移転

II 「むらさき学級」の教育課程

1 特別支援学級の教育目標

一人一人の発達段階および特性、障害の状態に応じた教育活動を通じて、「分かるよろこび」「できるよろこび」を実感しながら、主体性をもって行動できる児童を育成していく。

◎よく聞き、よく考える子 ～できた経験を自信につなげ、考え、表現し、行動できる児童を育てる。

- ・仲良く助け合う子 ～相手の気持ちに気付き、思いやりをもてる児童を育てる。
- ・元気な子 ～心も体も元気な児童を育てる。
- ・最後までがんばる子 ～目標をもって、最後までやりとげる児童を育てる。

（3）学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

ア「よく聞き、よく考える子」を育成するために

- ① 児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習活動や体験活動、話し合い活動を工夫し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を育む。
- ② 児童一人一人の実態に即した個別指導計画を作成することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実にむけて、指導方法や指導体制の工夫改善に努め、ICT 機器を活用しながら基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。

イ「仲良く助け合う子」を育成するために

- ① 児童と教師、児童相互の関わり合いを重視し、児童の情緒の安定を図り、学習や生活の基盤となる、よりよい人間関係を育てる。また、通常の学級や併設の肢体不自由学級、他校の知的障害学級との交流を通して、人との関わり方やその楽しさを学び、社会性を培う。

ウ「元気な子」を育成するために

- ① 校内での取り組みや学級の教育活動を通して、基本的な動作を鍛えたり運動の楽しさや健康の大切さを実感したりする場面を設定し、生涯を通して健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。

エ「最後までがんばる子」を育成するために

- ① 家庭との連携を密にし、社会生活の基本ルールやスキルを身に付けさせるとともに、規範意識に基づいて主体的に行動しようとする態度を育てる。
- ② 自分のよさを知ったり、成功体験を重ねたりすることにより、自信をもって次の目標に挑戦しようとする意欲を育む。

2 主な年間行事

		主な学校行事	主な学級行事
1 学期	4 月	入学式、始業式 1 年生を迎える会、離任式	
	5 月	消防写生会、学校公開 体力調査	
	6 月	日光移動教室（6 年） 個人面談	じゃがいもほり むらさき・いぶき合同校外学習
	7 月		小中授業交流会（5、6 年） なかよし交流会
2 学期	8 月	始業式	
	9 月	保護者会	
	10 月	運動会 オーケストラ鑑賞教室（6 年） 演劇鑑賞教室（3 年）	むらさき・いぶき合同宿泊学習
	11 月	アートフェスタ	
	12 月	保護者会	小中授業交流会（5、6 年）
3 学期	1 月	始業式、校内書き初め展 学校公開	特別支援学級紹介作品展 むらさき・いぶき合同遠足
	2 月	クラブ見学（3 年）	
	3 月	保護者会 6 年生を送る会 修了式、卒業式	お別れ会

3 時間割の例

	月	火	水	木	金
1	道徳	日常生活 の指導	音楽	日常生活 の指導	国語
2	算数	算数	算数	学級活動	音楽
3	体育	生活単元 学習	体育	算数	図工
4	生活単元 学習	生活単元 国語	生活単元 学習	体育	図工
5	国語	国語	国語	生活単元 学習	図書
6	クラブ 委員会	生活単元 学習		総合的な 学習の時間	生活単元 学習